

第1章 人類の出現と古代文明

① 人類の出現

(1) 人類の誕生

人類は、およそ800万年～500万年前に類人猿と分かれて進化し、**直立二足歩行**をするようになった。これにより、歩行に前足を用いる必要がなくなり、手として機能するようになった。やがて、手で道具を作り、使用するようになり、火も使用するようになり、脳を発達させ、(**言葉**)を習得した。

①猿人…最古の化石人類。脳容積はチンパンジー・ゴリラと変わらない。エチオピアであごの骨が発見された**ラミダス猿人**が最古の猿人(およそ450万年前)と考えられている。簡単な打製石器を使用した猿人もいたと考えられている。

②原人…猿人の次に現れた化石人類。原人の脳容積は猿人の倍もあり、1000CC以上のものもある。原人としては、ジャワ原人(およそ130万年前)・北京原人(およそ50万年前)などが確認されている。ジャワ原人には石器を使用した証拠は見つかっていないが、北京原人は洞穴に住み、火と石器を使用したことが確認されている。

③旧人…原人と新人の間に発生した化石人類。脳容積は現代の人類と変わらない。骨は太く頑丈で、額は後退して眼窩上に大きな隆起があった。厳しい自然環境に生きる能力を備え、小屋を作り、毛皮の衣服を着用し、簡単な石器を使用し、集団で大型獣を狩猟していた。ドイツで発見された**ネアンデルタール人**がその代表である。旧人は、その後に現れる新人とは関係がなく、2万8000年前頃に滅亡したと考えられている。

④新人…およそ4万年～1万年前に出現した化石人類。**人類の直接の祖先**と考えられている。精巧な打製石器・骨角器を使用し、狩猟・漁労を発達させ、社会と呼べるような集落をつくり生活をしていた。洞窟に壁画を残していることから、宗教意識や美意識も備えていたと思われる。南フランスで発見された**クロマニヨン人**(およそ3万年前)はその代表である。

(2) 旧石器時代

人類(猿人)が誕生してからおよそ1万年前までの期間。(**打製石器**)・骨角器を使用して、狩猟・漁労・採集を中心とした生活をしていた。やがて、言葉を習得し、火を用いるようになり、氷河時代を生き抜いた。

② 文明の発生

(1) 氷河期の終わり

今から(1万)年ほど前に、氷河期が終わり、気候はしだいに温暖になり、海や陸のすがたもほぼ今と同じになった。マンモスなどの大型獣が減び、中小動物が繁殖した。人類は文明的な生活を獲得していくことになる。

(2) 新石器時代

狩猟・漁労・採集の発展工夫をしながら、一方で、野生の植物を栽培して(農耕)をはじめ、動物を飼いならして(牧畜)をするようになった。農耕と牧畜は人々の定住をうながし、生活を安定させることになった。また、石を磨いて作った(磨製石器)や(土器)を使用するようになった。

(3) 国家の誕生

農耕と牧畜は食料の計画的生産を可能にした。生産性を高めるために労働の分業が生まれ、仕事を指揮したり、食料を管理したりする者が現れた。増大した生産物は富として蓄えられ、富をめぐる争いも起きるようになった。争いに勝った者は負けた者を支配し、支配者と被支配者の区別ができ、国家が誕生した。

(4) 金属器時代

①青銅器時代…自然銅は新石器時代末から使用されていたが、銅にすずを加えて硬さを増した(青銅器)が発明されると、武器や祭器として使用されるようになった。

②鉄器時代…紀元前1400年頃、小アジアのヒッタイト人によって青銅器よりも強い鉄器を作る技術が発明され、その後世界に広まっていった。日本では、弥生時代後期に広く使用されるようになる。

③ 四大文明

(1) 文明発祥の理由

紀元前3000年～1500年にかけて、ナイル川流域のエジプト、チグリス川・ユーフラテス川流域のメソポタミア、インダス川流域のインド、黄河流域の中国で文明が発祥した。これらの地域で文明が発達した理由として、次の3つの点をあげることができる。

- ①気候が温暖で、生活し易かった。
- ②しばしば洪水がおこり、肥えた土地をもたらした。
- ③灌漑設備や交通設備が発達した。

(2) エジプト文明

ナイル川流域に、紀元前3000年頃から発達した文明。ナイル川の水源地は、上流のエチオピア高原にある。上流での季節的な豪雨によって、氾濫した水は流域の平地をおおった。洪水の後には上流から流れてきた肥えた土が残り、作物はよく育った。これが、「エジプトはナイルのたまもの」と言われる所以である。ナイル川の洪水の時期を知るために、天文学が発達し、1年を365日とする(**太陽暦**)が生み出された。

(3) メソポタミア文明

チグリス川・ユーフラテス川流域に、紀元前3000年頃から発達した文明。「メソポタミア」というのは「二つの川の間」という意味である。この地はいろいろな民族がいろいろな国家を建てた土地であったが、紀元前18世紀頃、古バビロニア王国の(**ハムラビ**)王の時が最も栄えた。王は(**ハンムラビ**)法典を制定し、法に基づく中央集権的な政治を行なった。農作業の時期を知るために、月の満ち欠けの周期を基準として(**太陰暦**)を作り、(**六十進法**)に基づく時間の観念や、7日を1週とする7曜制などが発明された。記録には粘土板に(**くさび形**)文字が使用された。

(4) インダス文明

インダス川の中・下流域に、紀元前2300年頃から発達した文明。整然とした都市計画に基づいて建設され、舗装された街路、れんが造りの家屋、下水設備、公衆浴場、集会場などの跡が見られるが、強力な支配権力を示す宮殿や陵墓などは見られない。このような都市の遺跡として、インダス川中流域の(**ハラッパー**)、下流域の(**モヘンジョ＝ダロ**)がある。また、独自の象形文字(**インダス文字**)も発見されているが、まだ解読されていない。

(5) 黄河文明

黄河の中・下流域に、紀元前5000年頃～前4000年頃から発達した文明。

①夏…中国最古の王朝とされるが、夏の実在はまだ実証されていない。

②殷…紀元前16世紀頃～前11世紀。現在確認されている中国最古の王朝。殷墟(殷王朝の都の遺跡)から亀甲や獣骨に書かれた(**甲骨文字**)から、王は神意に基づく祭政一致の神権政治を行っていたことがわかる。祭器や武器には高度な(**青銅器**)が使用されていた。

③周…周の王は一族の者に領地を与えて諸侯とし、各地を統治させる政策をとった。

④春秋・戦国時代…紀元前8世紀頃、周は西北の遊牧民の侵入を受け、都を東に移した。これをきっかけに、有力な諸侯が争う時代が続いた。各地の諸侯は、広く人材を求めたので、諸子百家と呼ばれる多くの思想家が現れた。孔子もこのときに現れ、その教えは(**儒教**)として今日まで残っている。また、この時代には(**鉄器**)が使用されるようになり、鉄製農具が作られるようになり、農業生産の向上に大きく貢献した。

⑤秦…紀元前221年に、秦の(**始皇帝**)が中国を統一。北方の遊牧民族の侵入を防ぐためにおよそ4000kmに及ぶ(**万里の長城**)を築いた。始皇帝のとった急激で厳しい中央集権体制は民衆の反感を買い、始皇帝が病死すると、各地で反乱が相次ぎ、秦はわずか15年で滅亡する。

⑥漢(前漢:紀元前202年～紀元後8年、後漢:紀元後25年～紀元後220年)…秦末の反乱の中で、最後まで残ったのが沛県出身の農民の劉邦と楚の武将の項羽だった。そして、項羽を倒した劉邦が中国を統一して皇位につき、(**高祖**)と名乗った。都は(**長安**)に置かれ、中央アジア、ベトナムまで領土を広げ、中央アジアのオアシスを結んで(**シルクロード**)とよばれる交易路が開け、ローマ帝国との間で交流が行なわれた。西方からは、馬・ぶどう・仏教・銀・ガラスなどが伝わり、漢からは絹織物・陶磁器・茶などが西方に伝わった。前漢は新によって滅ぼされるが、紀元後25年に、光武帝によって再興し後漢となる。

《《 関連語句 》》

- 化石人類…化石化した骨によって知られる人類。猿人・原人・旧人・新人に大別される。
- アウストラロピテクス…1924年以降、南・東アフリカ各地で発見された猿人。名称の意味は「南方の猿」。
- 先史時代…文字で書かれた記録のない時代。旧石器時代→新石器時代→青銅器時代→鉄器時代。
- アルタミラの洞窟壁画…1879年に発見された北スペインにある遺跡。クロマニヨン人による絵画として広く知られている。
- ラスコーの洞窟壁画…1940年に発見された南フランスにある遺跡。クロマニヨン人による絵画として広く知られている。
- カースト制度…紀元前10～紀元前7世紀にかけて、インダス文明地域(古代インド)で形成された厳重な階層身分制度。「カースト」の語源はポルトガル語の「カスタ」(家柄・血統)に由来する。インドでは一般に「ジャーティ」という語を用いる。

〈〈 参考図書〉〉

『中学社会 歴史』(平成24年発行 教育出版)

『チャート式シリーズ 中学歴史』(新指導要領準拠版 第8刷 平成12年発行 数研出版)

『中学総合的研究 社会』(改訂版 平成21年発行 旺文社)

『中学社会 自由自在』(改訂第2刷版 平成25年発行 受験研究社)

『徹底演習テキスト 中学歴史』(2013年度用 受験研究社)

『シリウス21 歴史Ⅰ』(育伸社)

『中学実力練成テキスト 歴史』(文理)

『新中学問題集 歴史Ⅰ』(教育開発出版株式会社)

『改訂版 詳説世界史研究』木下康彦・木村靖二・吉田寅編(平成20年発行 山川出版社)

『改訂版 世界史®用語集』全国歴史教育研究協議会編(平成20年発行 山川出版社)